

山東半島製造業基地 の発展戦略研究

——山東と東北アジア地区の経済協力と発展

陳偉 張文忠等 著



中国时代经济出版社
China Modern Economic Publishing House

山東半島製造業基地 の発展戦略研究

——山東と東北アジア地区の経済協力と発展

陳偉 張文忠等 著



中国时代经济出版社
China Modern Economic Publishing House

图书在版编目(CIP)数据

山东半岛制造业基地发展战略研究 / 陈伟, 张文忠等著. —北京: 中国时代经济出版社, 2006.8

ISBN 7-80169-913-0

I. 山… II. ①陈…②张… III. 制造业 - 经济发展战略 - 研究 - 山东半岛 IV. F426.4

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2006) 第 092223 号

山东半岛制造业基地发展战略研究

——山东与东北亚地区的经济合作与发展

陈伟 张文忠等著

出版者	中国时代经济出版社
地址	北京市东城区东四十条24号 青蓝大厦东办公区11层
邮政编码	100007
电话	(010) 68320825(发行部) (010) 88361317(邮购) (010) 68320498(编辑部)
传真	(010) 68320634
发行	各地新华书店
印刷	北京嘉恒彩色印刷有限责任公司
开本	787×1092 1/16
版次	2006年9月第1版
印次	2006年9月第1次印刷
印张	27.5
字数	410千字
印数	1~3000册
定价	58.00元
书号	ISBN 7-80169-913-0/F·415

序言一

製造業の発達程度は一つの国家あるいは地区の経済の総合的な実力と近代化水準を評定するに当たって最も重要なしるしである。当面、世界経済グローバル化の大きい背景下で、先進国はチェーン価値と産業チェーンの要求によって、次々と全世界に向かう開発と配置資源の高効率生産体制を打ち立てて、世界的生産システムを設立している。労働と資源型製造業は先進国から発展途上国へ移転して、技術レベルが高い国家からその他の国家へ移転することを速めている。中国が巨大な市場空間と豊富な人力資源優勢で、再度の国際産業シフトを受ける重要なキャリアになっている。この歴史の流れの前で、山東は国際経済と産業シフトの情勢に対する科学的な判断に基づいて、山東半島の製造業基地の建設を加速する重大な措置をした。

山東は中国東部の沿海に位置して、我が国の経済が比較的に発達して、最も活力がある省の一つである。改革開放以来、経済と各社会事業の発展がとても速くて、主要な経済指標は全国の前列に位置している。対外開放の歩調が日増しに加速して、すでに 200 余りの国家と地区に経済貿易の関係を作り上げて、山東へ投資に来る国際大財団、大会社は 100 社あまりに達している。山東は自然資源が豊富で、鉱物資源の種類が多くて、埋蔵量が大きくて、すでに鉱物を 145 種発見して、55 種の埋蔵量が全国の前 10 位に入っている。山東は有名な農業大省で、食糧、綿、油、野菜、果物、肉類、水産などの主要な農産物の生産高は全国で上位に並ぶ。山東のインフラは十分に揃い、道路は大きい密度と良い質で名高くて、高速道路はすでに全国で真っ先に 3000 キロメートルを突破した。沿海の開放港を 17 ヶ所所擁して、国内外の航路を 300 数本切り開いた。発電機械の総容量は 2700 数万キロワットを擁し、電話の電容量は 3000 数万門である。基礎産業のセットは完璧であり、すでに軽工業、電子、化学工業、機械、紡織、冶金などの支柱産業を中核とする部門が比較的揃っている工業の体制を形成している。山東の位置優位性は明確で、中国黄河経済地帯、環渤海経済地

域と東北アジア経済圏の合流点に位置し、日本、韓国と海を隔てることと見渡し、地理の位置は十分優れている。これらに所有し、山東半島製造の基地建設を加速するためにみな良好な条件を創造し、東北アジアの各国特に日本、韓国との協力交流を拡大するためにしっかりした基礎を定めた。山東はすでにあった基礎の上に、高速の発展の新時期を迎えて、発展の見通しは非常に広大で、長江デルタと珠江デルタを継いだ後に、中国北方にそびえ立つ重要な地区になることを予見することができる。

《山東半島製造業基地の発展戦略研究》という本は、山東省の現状に立脚して、国内外製造業の基地の発展背景と趨勢から出発し、山東半島製造業の基地建設と東北アジア地区の協力に対して、展望性研究を行い、全面的に山東の半島東北アジア中での位置優勢を明らかに述べた。山東半島製造業の基地発展の見通し及び構造を簡単に描き、山東半島製造業基地が全国製造業にある地位、基礎および比較優勢を比較的に論述したことを通して、日韓などの国及び環黄海、渤海经济圈地区の関係と山東半島製造業の基地建設の拡大協力に参与する見通しをを詳しく討議した。青島、煙台、威海の三市を核心にし、八大産業クラスターを重点的に発展させて、日韓と欧米の産業シフトを受ける主要なキャリアになることを提出した。これらの重要な観点は山東半島製造業基地の建設企画のためにみな有益な参考を提供した。この本の出版が、山東半島製造業の基地建設を紹介することに対して、山東と世界の各国、特に東北アジア国家と地区の協力する交流を推進することに対して、積極的な作用を果たすことを信じている。

山東省省長 韓寓群

2004年2月

序言二

経済グローバル化の波の下で、東北アジアの地域協力は絶えず深く進んでいる。中日韓の三国の優勢が補い合って、互いに利益を受け、与える態勢は一応の形がととのっている。これは世界経済の構造中に発生した一つの奥深い影響を持つ変化である。

中国山東省の経済は急速に増大して、インフラは日増しに完全になっており、いくつかの国際競争力を持っている産業は形成されており、巨大な発展潜在力を秘めている。

《山東半島製造業基地の発展戦略研究》は異なった角度から山東産業の発展優勢を分析論証して、山東が中国経済ひいては東北アジア地域協力の中にある地位と作用について理論の詳しい研究を行う、ちょうど良い時期である。

私は心からこの精確な、また広範な論著が中日韓の三国の企業家が正確に山東発展の成り行きを理解、把握し、山東対外経済協力の中で自分の位置を探し当てることに役立てるのを期待している。

中華人民共和国の駐日本国特命全権大使 武大偉

2004 年 2 月

序言三

1992 年に中韓が国交樹立してから、中韓両国の経済と貿易関係は著しい発展を得た。貿易の上から見て、ここ数年来、中国は韓国の貿易対象の中でずっと第 3 位を占めており、韓国はすでに日本、米国と中国の香港地区に次ぐ中国の第 4 の大きい貿易相手になった。投資の上から見て、2001 年末まで、韓国企業が中国に対する直接投資する実際利用金額は 122 億ドルまでに達して、中国の第 4 の大きい投資国になって、米国、日本とシンガポールに次いだ。

山東省は韓国との一衣帯水の地理的優勢のため、ずっと韓国の対中貿易と投資の重点地区である。2001 年、山東省と韓国の貿易額は 61.5 億ドルに達し、環黄海・渤海地区の対韓貿易総額を半分(47.9%)近く占めた。山東も韓国が投資する第一選択地区である。2001 年までに、山東に投資する国家と地区は 116 あって、契約ベースの投資金額(74 億ドル)にしても実際利用外資金額(47 億ドル)にしても、韓国は全て香港地区だけに劣り、第 2 位を占めた。特に 2001 年に、韓国が山東に対する契約ベースの投資金額は 18.7 億ドルに達し、初めて香港を上回って、首位を占めた。実際利用外資金額も 8.8 億ドルに達して、香港の 8.9 億ドルに接近した。

中国が WTO に加入した後で、韓国企業は中国貿易投資に対して更に積極的になった。韓国業界の人士は、韓国の大企業が現在に中国を「第 2 の産業の最前線の基地」にしていると言う。2002 年、韓国の全国経済人連合会が東アジアに投資する韓国企業を 139 社対象にした《韓国企業の東アジア投資動向の報告》は明らかに示されたように、65%の企業が中国に対する投資を拡大すると表して、58%の企業は投資を移転する時、まず中国に転換することを考慮すると語った。韓国企業が中国に対する投資ブームをまだ持続している。明らかに、未来の中韓経済貿易領域の提携見通しは非常に広大である。

《山東半島製造業基地の発展戦略研究》という本はマクロとミクロの角度から、山東省の貿易投資環境及び発展製造業の基地戦略方針を詳しく述べた。これはきっと山東省と経済貿易協力関係を強化することを熱烈に望む韓国政府と企業界の人士のために、山東を認識理解する最良の方法を提供したのであろう。山東の経済発展現状、将来性を研究することに対して重要な参考価値を持っている。

中華人民共和国の駐大韓民国特命全権大使 李 濱

2004 年 2 月

——▶▶▶前書き▶▶▶——

改革開放から20年余りの発展を経て、山東半島は既に我が国の経済発展の最も速い、最も活発な地区の一つになった。自然資源の埋蔵量と組合せ、現有産業の発展基礎及び各主導産業の発展態勢、特に積極的に国際市場競争に参加するなどの全方位の角度から見て、山東半島は我が国北方製造業の基地になる基本的な条件を備えた。現在、青島、煙台と威海を核心とする半島製造業基地の雛型はすでに現れて、そして発展潜在力は巨大である。この大きい背景下で、省委員会書記の張高麗氏は2002年に開催された全省経済工作会议で日韓に向けた膠東半島製造業基地を建設しようとすることを提出した。すぐまた日韓と欧米に向けた加工製造業基地の発展戦略の建設を加速しようとすることを提出した。2003年7月に山東省人民政府は「膠東半島製造業の基地建設を加速することに関する意見」を可決した。

我われはいくつかの関連領域の有名な青年専門家を組織して山東半島の製造業基地建設に対する問題などの系統的な研究を展開した。これらの専門家は国内の有名な研究機構と大学・高等専門学校の高級研究者もいれば、また長期に渡って国家の関連部門・委員会と中国の海外駐在の公使館に働く行政管理人員もいる。彼らの多数が日本、韓国留学の博士で、長期間日韓に滞在し、留学、研究と仕事の経験を持ち、しかも中国経済と日韓経済の問題に対して比較的に深い研究を持っている。国内の経済を熟知して、また日韓経済を理解している。「東北アジア経済論壇」が開催されて以来、団省委員会はすぐこれらの優秀な専門家を組織して「山東半島製造業の基地建設」という課題チームを設立して、山東経済と日韓経済に対して関連研究を行うことに着手し、省委員会が膠東半島製造業の基地戦略を建設することを提出した後、専門家グループは研究成果を集めて、2003年に《興す半島製造業基地》という本の最初の原稿を形成して、そして2004年の始めに正式に出版された。

ここ数年は山東省の社会経済が高速に発展する時期であり、特に青島、煙台と威海を核心とする半島製造業基地の核心都市は、省委員会省政府

が提出した半島都市群、半島製造業基地、日韓産業協力区など重大な戦略を執行する中に、驚異的な成績を取得し、重要な模範と先導作用を発揮した。済南は全省の政治、経済、文化センターとして、その発展速度と質は同様に人の注目を引いた。迅速に、確かに、客観的に半島製造業の基地建設の業績、発展動向と今後の発展重点を把握するために、課題チームは半島製造業基地の核心都市に対して追跡研究を行った。とりわけ「国民経済と社会発展の第十一次五ヵ年計画」を結合し、済南、青島、煙台と威海の4都市のここ数年、半島製造業の基地建設中で取得した業績と未来の発展重点に対して分析と研究を行い、また全省を反映する関連データに対して更新を行った。この基礎上に、「半島製造業基地の発展戦略研究」の執筆作業を完成した。この本は上と下の二篇及び付録に分けられ、共に15章で約36万字である。

上篇は産業の分業理論、産業の競争力理論、産業の集団理論、地区経済の関連理論に立脚して、国内外の製造業基地の発展背景と山東半島の現実条件から出発して、重点的に以下の6つの方面の問題を分析して研究した。

第一、世界の製造業基地の空間シフト動向と中国経済発展の重点転換態勢から、我が国が中国北方製造業の基地を建設する必要性和重大な意義を分析した。

第二、長江デルタ、珠江デルタと北京・天津・河北、遼寧中南の地区経済発展との比較を通して、山東半島がもし国際と国内産業発展の多いチャンス握って、自身の位置、交通、市場優勢、環境などの優位を発揮すれば、完全に中国北方の最も活力を持っている製造業基地になることができることを詳しく述べて、そして山東半島のすでにあった産業基礎と優位に基づいて、重点的に発展すべきである八大産業クラスターを提出した。

第三、位置条件、交通運送条件、産業基礎、園區発展及び対外貿易などの視角から膠東半島に対して深い分析を行って、青島、煙台、威海を核心とする膠東半島が山東半島製造業基地のリーダーであることを提出し、しかも日本、韓国と欧米の産業シフトを受ける主要なキャリアである。

第四、重点的に済南、青島、煙台と威海の4つの核心都市が半島製造業基地の設立中で発揮した作用、及びそれぞれ製造業を発展する優位性、産業発展の重点、産業連鎖と産業クラスターの発展方向および構想などを研究した。

第五、全世界価値チェーンの分業理論と山東半島産業発展の実際的な情況から出発し、山東半島はどのように全世界価値連鎖で自身の地位を形成して強化するのか、どのように自身の産業連鎖を発展するのか、どう

ように国際産業チェーンを設立し、地方特色と競争優勢を持っている産業のシステムを形成するのかに答えた。

最後に、山東半島製造業の基地を建設する六大戦略と五大対策を提出した。

下篇は環黄海・渤海経済圏と東北アジア地区の経済協力の背景に立脚して、日本の九州経済帯、韓国の西海岸の産業経済帯が山東半島と協力する潜在力と将来性などの角度から、重点的に「日韓産業協力区」の建設の可能性を詳しく討議した。20世紀80年代に珠江デルタは政策優位を発揮する基礎の上に、日本産業シフトを受ける主要なキャリアーになった。20世紀90年代に、長江デルタは十分な産業の組み合わせでセットにする能力と活力あふれる市場メカニズムを利用して、日韓企業、特に日本企業の投資重点の地区になった。21世紀に入って、日韓企業は再度の投資のピークに入って、産業シフトの力度も絶えず強化している。このような背景下で、もし山東半島は日韓両国に近い位置の優勢とすでに作り上げた産業の基礎優勢を発揮することができるならば、完全に日韓産業の再度移転の重点地域になる見込みがあると、私たちは思っている。下篇は重点的に3つの問題を研究した。

第一、環黄海・渤海経済圏はすでに発展して半導体、自動車と鋼鉄などの世界生産基地になった。山東半島は存分に“時機、地の利、人の和”の優位を利用して、環黄海・渤海経済圏の間の協力を強化すべきである。これは山東半島が日韓産業シフトを受けることに有利である。

第二、日本の北九州地区は日本の重要な製造業基地の一つで、1990年以来、加工、組み立て型産業は絶えず外へ移転してきたが、半導体と自動車産業の優勢が依然として明確である。そこで、山東半島は半導体と自動車などの業種で日本の北九州地区と密接に協力すべきである。これは半島製造業の基地の建設に有利である。

第三、韓国の西海岸地区は20世紀の80年代末から、すでに韓国の国土開発の重点対象になって、第三回国土総合開発計画の期間(1992~2001)に多くの産業園区を建設した。2000年に製定された第四回国土総合開発計画の中で、西海岸地区の開発が依然として高い関心を持たれた。これで分かるように、韓国の西海岸が韓国国土軸の中に最も将来性があり、最も成長性と現実性に富む経済発展軸になる。そのため、山東半島が西海岸との協力を強化することはきっととても大きい発展空間を持つのであろう。

全書の最後の一部分で、読者の参考になるであろう、2002年の「東北アジア経済論壇」にある部分の報告を収録した。

課題の研究考察の過程で、私達は山東省の企業界と日韓の企業界が互いに理解の足りないことを痛感した。以前の企業誘致と資金導入の中で、政策と人情の企業誘致は主体になり、基礎環境の解説、優遇政策の宣伝、感情連絡の強化を主としていた。国内各地の優遇政策の同化に向かう環境の下で、日韓政界と企業界は山東半島が全世界価値連鎖にある地位、東北アジアにある位置の優勢、中国地域経済にある優勢などに対してははっきりしている認識がなかった。この本はある程度に上述の問題に答えて、学術上から山東半島の地位と優勢を解答し、「学術が表に立って、企業誘致がついて寄って、位置を測定するのがはっきりしている、優位が明らかである」の効果を達成し、日韓の経済界に向かって山東半島製造業基地の優勢を宣伝して、山東半島製造業基地の影響を拡大する一面で、著しい作用を発揮することができる。

この本の全体構造と主体内容は陳偉、張文忠から完成され、倪月菊、劉曙光、鄭京淑、李業錦などの同志は部分の章節の編纂に参与した。

私達は更に研究仕事に対して非常に支持と激励を与えてくれた山東省委員会、省政府に感謝して、山東省省長の韓寓群氏は喜んでこの本のために序文を書いて、私達の仕事に対してもっと高い要求と願望を提出した。省委員会の副書記の姜大明氏、副省長の孫守璞氏はこの本の編纂、出版する仕事に対して念入りに指導を与えた。同時に中国の駐日、駐韓大使館もこの本の研究仕事を非常に重視して、そして強力な支持を与えてくれた。中国駐日、駐韓の大使が日にそれぞれこの本のために序文を書いてくれて、ここで私達は心から感謝している。

全書の執筆過程中、また威海市委員会、市政府の強力な支持を得て、市委員会の書記の崔曰臣氏は課題チームの研究作業に対して強力な支持を与えた。威海市外国商人サービスセンターの主任の王政玉などの方は私達のために大量の資料を提供した。日本貿易振興会青島事務所の方はいろいろな協力をして頂いた。私達は謝意を深く表す！

全書の執筆過程中で、私達は怠らない努力を行ったけれども、しかし時間が緊迫するため、これに加えて作者のレベルは限りがあり、本の中に必ず不足なところがあって、謹んで各位の読者、指導者のご批判やご叱正を願う次第である。

陳 偉

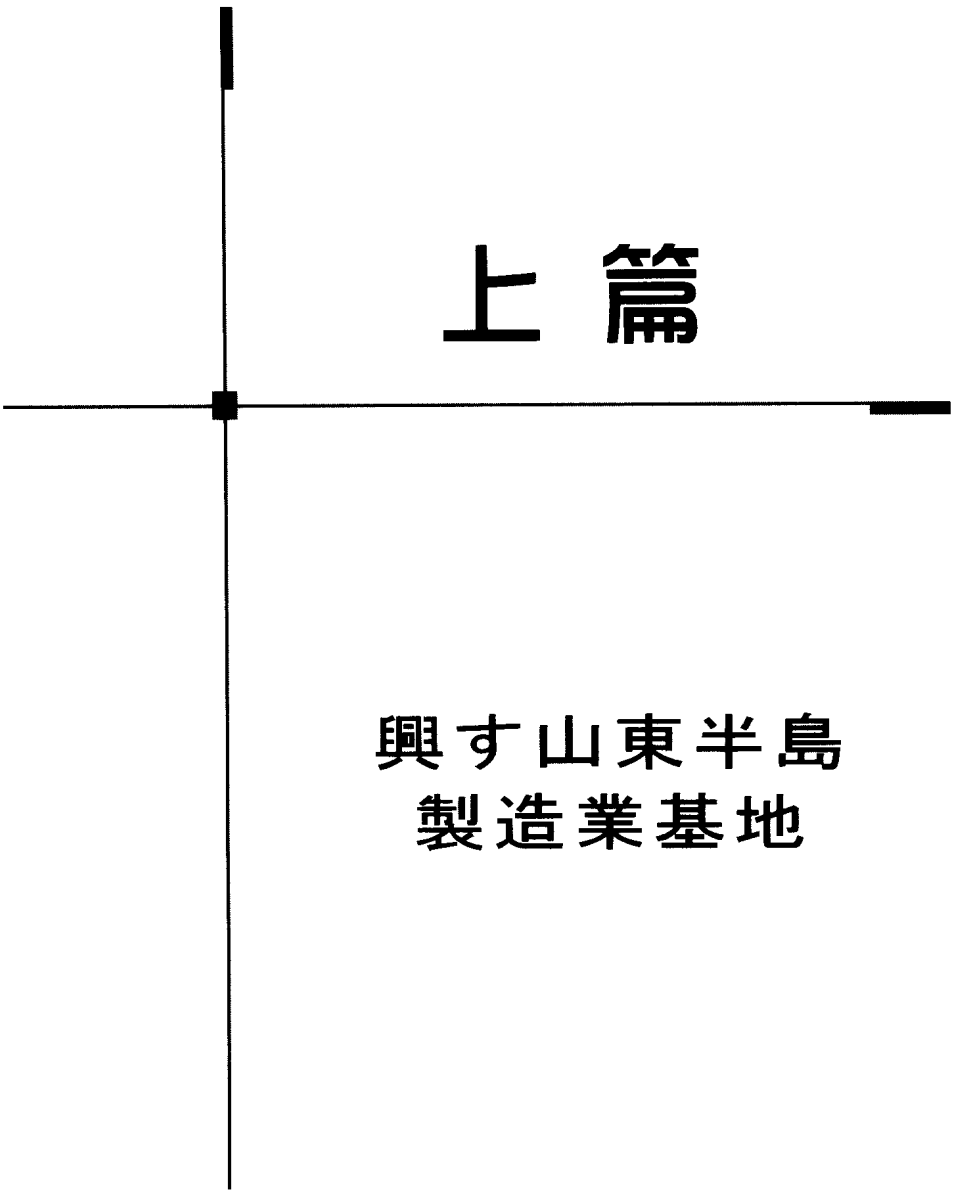
2005 年 6 月 18 日

第四節 青島市の製造業の空間組織	123
第六章 煙台市製造業基地建設の戦略構想	127
第一節 煙台市製造業の發展現状と優勢	128
第二節 製造業の發展戰略	134
第三節 煙台市製造業の空間組織と誘導	145
第七章 威海市製造業基地の建設構想	149
第一節 威海市製造業基地の建設の背景の分析	150
第二節 威海市製造業の競争力の分析	156
第三節 威海市の製造業産業クラスターの發展重点	161
第八章 製造業基地の産業發展について	169
第一節 グローバル・バリュー・チェーンの視野に立つ地方産業の發展	170
第二節 山東半島の製造業の全体的な競争力	174
第三節 山東半島製造業の産業クラスターの發展	182
第四節 山東半島製造業のバリューチェーンの分業と協力	193
第九章 半島製造業基地と国際産業チェーンの建設	201
第一節 グローバル・ヴァリュー・チェーン及び東北アジアの産業分業	202
第二節 山東半島の多国籍投資と国際産業チェーンの構築	206
第三節 半島製造業基地の国際産業チェーン建設	219
第十章 山東半島製造業基地發展の戰略及び政策	225
第一節 山東半島製造業基地發展の位置付け	226
第二節 發展戰略	232
第三節 政策の推進	238

下篇 環黄海・渤海湾經濟圏の協力と發展

第十一章 環黄海・渤海湾經濟圏の勃興	245
第一節 環黄海・渤海湾經濟圏の形成	246
第二節 環黄海・渤海湾經濟圏の地位	250
第三節 環黄海・渤海湾經濟圏の地縁的協力	255
第十二章 中国環黄海・渤海經濟圏の發展	259
第一節 中国における環黄海・渤海地域の主な戰略的地位	260
第二節 中国環黄海・渤海地域の SWOT 分析	261
第三節 中国環黄海・渤海地域經濟社会の全体的な特徴	266
第四節 珠江デルタと長江デルタの比較研究	273

第五節	中国環黄海・渤海地域と「大北京計画」	287
第十三章	九州の製造業の発展と環黄海・渤海地域の産業連携	291
第一節	九州の製造業の構造変化	292
第二節	九州の加工・組立型産業の発展	294
第三節	九州産業発展のエンジン——半導体と自動車産業クラスター	296
第四節	対アジア国際化戦略	304
第五節	九州主幹産業の国際ネットワーク化	310
第十四章	韓国の西海岸経済地域の発展	319
第一節	環黄渤海経済圏の独特な戦略的地位	320
第二節	西海岸地域における経済・社会の発展の全体的特徴	323
第三節	西海岸地区に存在する問題	336
第四節	第四次国土総合開発計画における西海岸開発戦略	339
第十五章	環黄海・渤海経済圏の経済的連携	341
第一節	中国環黄海・渤海経済圏と日韓の経済的連携	342
第二節	日本の九州地域経済ベルトと中国・韓国と連携	348
第三節	韓国の中国・日本・朝鮮との経済的連携と西海岸経済圏	358
付録		382



上 篇

興す山東半島
製造業基地

